

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年6月21日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890101599
事業所名	グループホームさわや家
(ユニット名)	サックス
記入者(管理者)	
氏名	井上美恵子
自己評価作成日	令和元年 6月 1日

<p>【事業所理念】 ・【一人ひとりの幸せを願って】 敬愛・感謝・真心を願って利用者様と地域社会に尽くします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・アセスメントに新しい情報を更新することで入居者への気づきにつなげること事ができる。→新しい情報を本人との会話から聞き取りノートに記入している。 ・記録の際に具体的な言動、行動書き残す。→入居者との会話から言葉を「 」でケース記録に記入している。 ・会議の内容を参加できなかった家族に周知し理解を深めて頂く。→運営推進会議への参加を家族入居者さん毎回違った方に参加して頂いている。面会に来られた時会議記録を読んで頂いている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平成29年7月に新設し2年を迎えた事業所は、地域密着型特別養護老人ホームと併設した建物3階にあり、定期的に地域住民が集い交流の場となっている。防災意識が高い住民の声を反映する取組みとして、事業所は福祉避難所の指定を受けている。職員それぞれの個性を活かした運営や、得意なことを伸ばそうとする指導が行われているほか、職員全員で事業所としての課題や強みをしっかり分析するなど、管理者と職員の調和が素晴らしく、今後より一層の成長に期待したい事業所である。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常の会話や表情から思いを汲み取るようにしている。	◎	/	○	利用者は気兼ねなく発言することができ、職員も問いかけ方に配慮するなど良い雰囲気づくりに取り組み、日常生活の関わりを深めながら意向を把握している。利用者の思いを十分に理解し、アセスメントにつなげていけるように、収集した情報を情報収集用紙に集約するよう改善した。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入居時の情報を元に職員間で話し合ったり声掛けするなどして確認している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に家族さんに聞き取ったり本人の状態について説明している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	ユニット会などで話し合い記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者の意見に耳を傾け本人の思いを見落とさないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	利用者や家族さんから聞いた情報をノートやアセスメントシートに記入し職員が共有している。	/	/	○	入居時に生活歴を利用者や家族、サービス事業所などから情報を得てまとめている。入居後の生活の中で新たに知った利用者の情報は、情報収集用紙に記入し、理解を深めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	一人ひとりの状態や表情行動から今出来ることを把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日常様子観察を行い職員間で話し合っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員間で話し合い意見交換し確認し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	夜勤をしていない職員を含め具体的なことは、話し合っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ユニット会などで話し合い検討している。	/	/	○	利用者の必要としていることについて、家族を含めた担当者会議や、毎月のユニット会で話し合っている。利用者本人の視点での検討を心がけ、課題を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎日の特変や状態など記録ノートに記入し状態を共有している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	ユニット会を開き職員間で情報を共有している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	家族や職員の意見を反映し本人本位の計画をしている。				担当職員と各ユニットの計画作成担当者が、話し合った内容や職員のアイデアを反映させながら介護計画を作成している。担当者会議及びユニット会の議事録を残している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族や本人の希望をお聞きしそれに反映したプラン作成にしている。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の希望に沿った支援を行えるように心がけている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	毎週金曜日に地域の方との交流に参加している。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	朝夕の申し送りに共有している。			○	介護計画の内容は申し送りで共有し、個人ファイルに挟み確認している。利用者の課題を評価表に書き出し、1か月単位で実施状況を確認している。介護記録は時系列に沿って丁寧に記録し、発言やエピソードを交えた具体的な内容の記載へと改善している。今後は利用者の生活に寄り添う一番身近な存在である職員ならではの工夫、アイデアが盛り込めるように期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	職員間で分かるように申し送りしている。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者との会話から言葉をケース記録に記入している			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	ケース記録に記入している。			△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	職員間で話し合っている。			◎	介護計画の見直し期間の管理は、各ユニットの計画作成担当者が管理し、3か月から半年毎に見直しを実施している。毎月のユニット会で、日々の課題に対する評価表をもとに現状確認を行い、心身状態や暮らしの状態に変化が見られる時は家族と担当者会議を開催して話し合い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月一回ユニット会を開き現状確認を行っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の変化に応じて話し合いプランを変更している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月に一回必ずユニット会を開催している。			◎	家族を含めた担当者会議や、毎月のユニット会、緊急時にはその都度話し合いの場を設けている。参加できない職員には申し送りで伝えるほか、話し合いの内容は議事録にまとめて伝達している。確認後は押印・サインでチェックしており、伝達状況が確認できる。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	活発な意見交換ができるよう雰囲気作りをしている、				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月第3木曜日を会議の日と決めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録に残しみんなて共有している			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用し情報共有している。			◎	申し送りノート、話し合いの議事録で全職員が情報を共有している。確認後は押印・サインでチェックしており、伝達状況が確認できる。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭にて情報共有しノートも活用している。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	一か月のレクリエーション予定を立て活用している。	/	/	/	更衣や飲み物、レクリエーションへの参加など、一日を通じてその都度利用者が自分で選択できる場面を設けている。利用者が得意とすることや役割を通じて表情が輝くキーワードを発見している場合もあり、今後は全利用者の支援に活かしていくことに期待したい。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴の着替えや飲み物を選んでいただいている。	/	/	○		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	表情や言動からその人に合わせた支援ができるように努力している。	/	/	/		
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースに合わせて行っている。	/	/	/		
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	声掛けを行い楽しい雰囲気づくりに心がけている。	/	/	/		△
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	×	該当なし	/	/	/		/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	誇りやプライバシーを大切にしている。	◎	○	○	利用者を敬うことを一番大切に考えている。事業所内外の勉強会や研修で、虐待や身体拘束、接遇面から人権や尊厳について学びを深めている。プライバシーへの配慮は、利用者個々の特性への対応ができていないことや、業務に追われてつい大きな声になり、急がせてしまうことに気づきを持っている。居室への入退室も同様で、基本的にノックや声かけして了承を得ているが、常に意識した対応に努めて欲しい。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	時々言葉かけに配慮が足りない時があるため気を付けたい。	/	/	/		△
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴時や排せつ時プライバシーに配慮している。	/	/	/		/
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	声掛けやノックをし了解を得て居室入室している。	/	/	/		△
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報、保護漏洩防止は、意識している。	/	/	/		/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物置やおしぼり巻きなど手伝って頂いている。	/	/	/	利用者同士の相性や特性を把握した配席誘導や見守りに努めている。顔なじみとして互いに受容している様子や、世話役の利用者が他利用者のお世話をする様子などが見られた。他利用者のことが気になるあまり、トラブルに発展しそうな場面もあるが、職員が利用者の中に入り、家族を交えて話し合いを持ったりして良好な関係を築けるよう支援している。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	一人ひとりの出来ることや役割を意識している。	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	席の配置や日中の過ごし方を考慮しながら話して頂いている。	/	/	/		○
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	座席の配置替えを行い対応している。	/	/	/		/

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	アセスメントシートを読み家族さんから聞いている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	アセスメントシートを読み馴染みの場所は、把握出来ていないことがある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	なじみの方が面会に来られたり、思い出の場所に家族と出かけられる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時は居室やホールなど本人の好きな所で過ごす。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	行事の外出や施設敷地内の散歩を行っている。	×	○	△	花見や初詣などの外出行事では季節の移り変わりを楽しみ、日常的には車いすを利用する重度の利用者を含め、広い敷地内での散歩で気分転換を図っているが、今後は敷地内に限らず利用者のその日の希望に沿った気軽な外出支援を行うことに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	行っていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	施設敷地内の散歩を行っている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族との外出はあるが地域の方との外出は出来ていません。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者の状態変化を職員同士で共有し対応している。	/	/	/	利用者のできることやできそうなことを見守り一緒に行うことで、心身機能の維持・向上を図る取組みに努めているものの職員がつい口を出してしまいがちと気が付いているため、今後の改善に期待したい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	その方に合った日常生活でのリハビリを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	貼り絵やリハビリ体操等自分で出来る事をして頂いている。	◎	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	生活の中で本人のペースで過ごして頂けるようにしている。	/	/	/	家事や作業にやりがいを感じ、役割を励みにしている利用者は介護計画に反映させている。全ての利用者それぞれの個性を活かした支援へつなげていくことに期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯物を畳んでもらったりおしぼり巻き、壁画作りなどに参加して頂いている。	◎	◎	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	毎週金曜日地域の方との交流に参加して頂く。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	起床時の整容や、入浴後の洋服を選んで頂いている。	/	/	/	初夏のさわやかな装いで身だしなみを整え、おしゃれが大好きな女性利用者が、コーディネートを色々試しては職員と語り合い、自己表現を楽しみ、アドバイスを受ける様子が見られた。現在、自分の好みを表現することが困難な重度の利用者はいないが、季節に応じた身だしなみで清潔に過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	家族の方と美容室に行かれたり、美容師さんに来て頂き決めている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に選んでもらえるように声掛けしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	一緒に考えたりアドバイスをして選ばれている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れたときに更衣させていただき清潔保持に努めている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	行きつけの美容室に行ったり来て頂く美容師さんに相談して頂く	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎日整容はして頂き出来ない方は、手伝わせて頂いている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	一番楽しみにされている為おいしい食事を提供できるようにしている。	/	/	/	法人栄養士がバランスのとれた献立を立案し、一括で食材を準備し、調理員が2ユニット分の調理を担っている。テーブルのセッティングなど、できることは自主的に行っている利用者もいる。好き嫌いやアレルギーは入居時に把握し、代替食材で対応する場合もある。献立には、ちらし寿司や和え物、旬の食材を取り入れた季節を感じられる工夫もあった。箸やコップなどの一部食器類は利用者が使い慣れたものを持ち込んだり、使いやすいものを事業所で準備したりしている。職員は利用者の食事の介助や見守り、箸が止まってしまうがちな利用者には動作を促す声かけなどを行っているが、交代で休憩を取るため一緒に食事は摂っていない。離床が困難な重度の利用者は現在いないが、食事介助が必要な利用者には細やかに説明しながら、他の利用者との会話を楽めるよう支援している。食事摂取量が低下傾向にある利用者は、家族を交えて話し合い、食事形態を工夫しながら少しでも美味しく楽しむことができるように支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事の片付けなど一緒に行っている。	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	お盆拭きなどして頂いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手な物や好きな物は把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	管理栄養士の作成に基づいて季節のものを取り入れている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	盛り付けの工夫などしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家族の準備した食器を使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	介助を行っているが一緒に食べることは、行っていない。	/	/	×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事のメニューを話しながら介助をしている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個別に記録を行い状態の把握に努めている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	声掛けし水お茶以外で飲める物や栄養補助食品などで補っている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士が献立を立てている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	定期的な消毒や保存方法を意識している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの大切さを認識し声掛けや介助を行っています。	/	/	/	口腔内の違和感や義歯の不具合などの訴えがある場合は、訪問歯科受診につなげ、早期対応に努めている。セルフケアができる利用者には声かけ誘導しながら見守り、必要に応じて介助して清潔保持できるよう努めている。セルフケアができる利用者の口腔内の状態把握が見落としがちになるため、今後は定期的に全利用者の状態を把握することに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	全員にはできていないが、把握する様務めている。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	特に指導は受けていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後に口腔ケアをして頂き夕食後は、洗浄剤で消毒している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来ない時は支援し、うがいなど出来るときは声掛けにて支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合がある場合は、家族に相談の上往診に来てもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけおむつに頼らない様に本人のタイミングで排泄出来る様に心がけている。	/	/	/	トイレでの排泄を基本として、できることを継続できるよう身体状態に応じた排泄支援を検討している。排泄用品を適切に利用できるよう話し合いを行い、利用者が精神面でも安心が得られるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分補給を細目に行えるように声掛けをしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	生活日誌や24時間シートにて把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	その都度見直しを行い日中夜間で使い分けをしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄困難な方はいないと思います	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	早めの声掛けを行い誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人、家族の方、職員と話し合っている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者の方の体調に合わせて使用している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分を多くとってもらっており、腹部を「の」の字マッサージを行う	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週に2回入浴を行っている	◎	/	△	週2回、午前中の中の入浴時間は固定している。利用者の多くが入浴を楽しみにしているため、ゆったりとした時間が確保できるように工夫し、希望や体調に配慮して順番を調整しながら入浴支援を実施している。今後は利用者からの要望があれば、午後の中の入浴にも応じるなど柔軟に対応して欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	持参された石けんやシャンプーを使用して頂いたり湯加減も配慮している	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人ができることはして頂いている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間をずらしたり、曜日を変えたりしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル測定を行ったり、清拭に変更したりしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	生活日誌や24時間シートを参考にしている	/	/	/	利用者の睡眠傾向を考慮し、生活リズムを大切にしたい支援に努め、日中の過ごし方や支援内容を検討している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中レクに参加して頂いたり、不安なことは取り除けるよう傾聴する	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師や家族の方と話し合い取り決めている	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼夜逆転にはならないよう行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者の方の希望があれば行っている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望があればサポートしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば行っている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いたハガキや手紙は本人に手渡し、家族の方にも報告している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族の方にもお願いしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	金銭管理の出来る方には訪問販売の際に参加して頂いている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	金銭管理の出来る方には参加して頂いている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	訪問販売の方には理解して頂いている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	金銭管理の出来る方がお一人ではあるが同行し、支援している	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	事務所に管理している。家族の方にも連絡を行っており、確認して頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	介護タクシーなどの利用ができることなどの説明を行っている	◎	/	○	利用者や家族のニーズを把握し、心情を理解しながら柔軟な対応をしたいという思いがあり、通常の内科受診同行だけでなく、他科専門医への受診の支援も行っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	一階の玄関は日中解放されているが、3階はオートロックにて対応している	◎	◎	○	総合施設建物共通の玄関を利用し、明るく柔らかな色調で親しみやすさが感じられる。事業所がある建物3階のホールには、年代物の端午の節句兜や古箆筒、茶道具を職員や代表者が持ち寄り、季節に応じた和みの空間を演出している。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	外出行事などの写真を掲示している	◎	○	○	共用の空間はどれも十分な広さと高さがあり、落ち着いた色調の壁面や家具を採用し、様々な場所にソファを設置している。毎日清掃を行い、清潔で臭気のない空間を確保し、快適に生活できるようにしている。卓上に飾った紫陽花の花を利用者同士が鑑賞しながら触って会話し、水替えをする利用者もいる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、居室、ホールなどの清掃は行っている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、壁面飾りを掲示している	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ひとりひとりのペースで過ごして頂けるよう配慮している	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	使用時は必ずドアを閉めているがホールとトイレが面している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	利用者の方の馴染みのあるものを持ってきていただいている	◎	/	◎	居室には利用者の好みのものを自由に配置して、居心地よく過ごしてもらっている。安心感を得るために自宅から大型のソファなどの家具が持ち込まれ、自室を再現していた。また、必要に応じて床にマットレスを置き、安全に生活できるように配慮している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	表札の使用。身体状況に合わせて車椅子や歩行器の使用をしている	/	/	○	自分の席がわからなくなりがちな利用者のためテープで表示し、トイレには利用者目線の高さに表示を掲げ、お風呂には大きなのれんをかけ、雰囲気を演出しながらもわかりやすさに配慮している。車いすや歩行が安定しない利用者が安全に移動できるよう、動線の安全確保にも努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	共用スペースには細々した物は置かないようにしている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌等は自由に読めるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	×	事故防止のため、オートロック対応している	◎	◎	×	両ユニット出入口にはテンキーの施錠システムがある。鍵をかけることの弊害について学ぶ機会を設け、現在の事業所での取組みが利用者にとって自由な暮らしであるかと問いかけてもいる。建物全体のセキュリティ上、施錠システムを活用することについては家族や地域住民に説明し、理解を得ている。今後も現在できる最大限の対応について検討し、正しい認識を学ぶ機会を継続させ、鍵をかけないケアについて問い続けて欲しい。また、日曜日は玄関が開いていないため、来訪ごとに開錠してもらうことに気兼ねしてしまう家族の心情を察し、対応を検討して欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	オートロックにて対応していることは家族の方にも理解して頂いている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	オートロックにて対応していることは家族の方にも理解して頂いている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシートなどの資料に目を通している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルチェックを行い利用者の方の表情に留意する。ケース記録や24時間シートにも記録している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があれば管理者に報告し、必要があれば医師に連絡している	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望する医療機関があれば受診して頂いている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望する医療機関があれば受診して頂いている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じて話し合いが行えていると思う	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	管理者や病院の担当者が行っている	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院の担当者とケアマネが連絡を取り合っている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	必要に応じて行っている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	かかりつけの医師に相談している	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけの医師に相談している	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	医師に報告し指示を受けている	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋に目を通し、ファイルに閉じている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	利用者の名前を読み上げ、他の職員にも確認してもらっている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	ファイルに閉じてある処方せんを目を通し利用者の方の変化を詳しく観察しています	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者の方の変化を詳しく観察し、記録し情報提供しています	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時にご家族に書類を確認して頂き話し合いを行っています	/	/	/	事業所での看取りの実績はないが、利用者の状態に応じて家族等や協力医療機関と方針を共有している。また法人全体でフォローできる体制を整えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	わかりません	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方針の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	管理者の方は見極めを行っていると思います	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	十分な説明を行っている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医師や家族の方と話し合いながら支援を行っている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時、電話連絡時に対応している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会に参加している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修会に参加しマニュアルを見て対応している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	道真会の通知、ニュース、子供の学校の状況などで情報収集している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に努めている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、うがい、マスク着用、アルコールスプレーの使用	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の方への報告を行い支援について話し合っている	/	/	/	家族には毎週開催する地域住民との交流会、事業所や法人内で行う行事に参加の呼びかけを行い、利用者の事業所での暮らしに触れられる機会を設けている。家族には電話連絡でも日常の様子を伝えているが、暮らしぶりやケアの内容をより具体的に知りたい、運営上の事柄や出来事について知りたいという家族の声が上がっているため、十分に理解できるような伝え方の工夫など、今後の取組みに期待したい。職員は家族が気軽に意見を言えるよう来訪時には声かけに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時はホールや居室にてゆっくり過ごして頂けるよう対応している	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	地域での交流会や、夏まつり、クリスマス会への参加等、声掛けを行っている	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	外出レク参加の承諾、結果報告等を行っている	○	/	△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	電話連絡や、面会の際に行っている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	電話連絡や、面会の際に行っている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	電話連絡や、面会の際に行っている	×	/	×	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	夏祭りの時に家族会を行ったがそれ以外は出来ていない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居前に説明を行い、その都度報告している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時などに声掛けを行っている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居前に説明を行い面会時に報告している	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居前に説明している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入所前に説明を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	町内会の方、民生委員の方々と話し合っている	/	○	/	事業所開設以来、町内会と共に協力し合える良好な関係が構築できている。地域住民と交流する機会が毎週あり、建物スペースを提供し気軽に利用してもらっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の方との交流会、運営推進会議にも出席している	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	毎週金曜日に交流会を行っている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	○	毎週金曜日に交流会を行っている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	毎週金曜日に交流会を行っている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	毎週金曜日に交流会を行っている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	毎週金曜日に交流会を行っている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	毎週金曜日に交流会を行っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回利用者の方、家族の方の参加がある	×	/	○	利用者や家族、地域住民の参加や新規参加者を増やしながら開催しており、少しでも活気ある運営推進会議にしたいという姿勢が感じられる。サービスの実際や地域情報の交換など、報告だけでなく意見交換も活発に行われている。議事録に話し合いの様子を詳細にまとめ、誰もが閲覧可能な状態であるが、参加できなかった家族にも共有し理解を深め、参加協力が得られるように取り組んで欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	サービスの実際、評価への取り組み状況について報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	サービス向上にいかしている	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	配慮、工夫していると思う	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	公表されている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	朝礼時に唱和している。理念に基づき仕事に取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	伝えていないと思います	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる	/	/	/	施設長は現場への理解が深く、管理者や職員からの意見を吸い上げ、働きやすい労働環境の整備に努め、地域活動にも積極的に取り組んでいる。また、職員に積極的に声をかけ、相談にも気軽に応じる頼もしい様子が見えがえた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	取り組んでいる	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	取り組んでいる	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	取り組んでいる	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいる	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会に参加し学んでいる	/	/	/	法人では身体拘束、虐待、事故防止研修を開催し、正しい共通認識で統一するように努めている。職員同士は適切なケアであったか検討する意識を持っているが、経験の浅い職員には迷いが生じる心配もあり、今後も正しい理解を深めると共に、話し合いの場を設け、対応方法についても学んでいくことに期待したい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	ユニット会で話し合っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修会に参加し学んでいる、事務所に掲示してある	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	しっかりと話し合いができています	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会に参加し職員間で話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。		該当者なし	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	今後勉強会に参加したい	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	今後考えていきたい	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今後図っていきたい	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成しており周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	今後実践力を身につけたい	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	その都度まとめ話し合っている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時やユニット会にて話し合っている	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	意見箱の設置ができています	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	対応している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対応している	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	管理者や家族のかたに報告している	/	/	○	利用者からは日常生活の中で意見や要望を聞いている。家族等からの意見を聞くため意見箱を設置しているが、意見箱の利用はなく、直接意見を伝えてくれている。管理者と職員との絆は大変強く、共に介護業務もやっているため、共感し合い、利用者本位の支援につなげることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置している	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	随時、行っている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	機会を作っている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	機会を持ち、ともに支援していくための運営を検討している	/	/	◎	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価を行っている	/	/	/	運営推進会議メンバーを中心に、サービス評価の意義や目的、評価結果を共有しているが、全ての家族には伝わっていないため、今後は事業所の運営がより良いものとなるよう、アドバイスや意見をもらいながら運営に活かしていくことに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	外部評価は公開されている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画の達成に向け取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	外部評価は公開されている	×	○	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で報告し目標に取り組んでいる	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	消防訓練を行っている	/	/	/	地域防災の意識が高い住民との協力・支援体制が築かれている一方で、家族からは不安感が高まっている現状であり、合同での訓練や話し合う機会を作ることで不安を軽減させ、今後の協力・支援体制をより強固なものにして欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回違う内容の訓練を行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や、避難経路の確認。備品チェックを行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の訓練には一部の職員は参加している	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	防災訓練など一部の職員が参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	実施していない	/	/	/	一人暮らしの高齢者や家族の介護など困った時に相談する場として、法人の窓口が対応しており、事業所としての対応は行っていない。市担当者や地域包括支援センターとは良好な関係が築かれ、他の事業所とのつながりや、地域の中学校・高校とも密接につながっていきこうとする姿勢がうかがえ、今後は地域の子どもたちとの関わりを高めたいと考えている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	行っている	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎週金曜日に交流会を行っている	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ヘルパー研修の実習の受け入れを行っている	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	毎週金曜日に交流会を行っている	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年6月21日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890101599
事業所名	グループホームさわや家
(ユニット名)	トランペット
記入者(管理者)	
氏名	井上美恵子
自己評価作成日	令和 1 年 6 月 1 日

<p>【事業所理念】 ・【一人ひとりの幸せを願って】 敬愛・感謝・真心を願って利用者様と地域社会に尽くします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・アセスメントに新しい情報を更新することで入居者への気づきにつなげること事ができる。→新しい情報を本人との会話から聞き取りノートに記入している。 ・記録の際に具体的な言動、行動書き残す。→入居者との会話から言葉を「 」でケース記録に記入している。 ・会議の内容を参加できなかった家族に周知し理解を深めて頂く。→運営推進会議への参加を家族入居者さん毎回違った方に参加して頂いている。面会に来られた時会議記録を読んで頂いている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平成29年7月に新設し2年を迎えた事業所は、地域密着型特別養護老人ホームと併設した建物3階にあり、定期的に地域住民が集い交流の場となっている。防災意識が高い住民の声を反映する取組みとして、事業所は福祉避難所の指定を受けている。職員それぞれの個性を活かした運営や、得意なことを伸ばそうとする指導が行われているほか、職員全員で事業所としての課題や強みをしっかり分析するなど、管理者と職員の調和が素晴らしく、今後より一層の成長に期待したい事業所である。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常の会話やケアプランを確認して、利用者の希望や想いを把握できるよう努めている	◎	/	○	利用者は気兼ねなく発言することができ、職員も問いかけ方に配慮するなど良い雰囲気づくりに取り組み、日常生活の関わりを深めながら意向を把握している。利用者の思いを十分に理解し、アセスメントにつなげていけるように、収集した情報を情報収集用紙に集約するよう改善した。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や仕草から読み取ったり職員同士の話し合いをしたりして、理解できるよう観察している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会に来られた際話せるよう意識している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ユニット会や介護記録に記録し共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思い込みで行動しないよう、会話や職員同士の話し合いから、利用者の想いを見落とさないよう気を付けている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	利用者や家族から聞けた生活歴はアセスメントシートに記入して、職員が共有できるようにしている	/	/	○	入居時に生活歴を利用者や家族、サービス事業所などから情報を得てまとめている。入居後の生活の中で新たに知った利用者の情報は、情報収集用紙に記入し、理解を深めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ケアプランを実行したり、他職員の意見や介護記録から現状把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者の表情や言葉、また他職員の意見や介護記録も参考にし、把握できるよう努めている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の言動から職員同士で話し合い、把握に努めている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	自分の目と他職員からの話、介護記録や申し送りノートを通じて把握に努めている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	会話や表情から要望を読み取り、できることは実践できるよう職員同士で話し合いを行っている	/	/	○	利用者の必要としていることについて、家族を含めた担当者会議や、毎月のユニット会で話し合っている。利用者本人の視点での検討を心がけ、課題を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会やその日出勤の職員で話し合いを行っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランに反映させ、目標を持って支援している	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	すべての意向は反映されていないが、納得していただけるよう意識している	/	/	/	担当職員と各ユニットの計画作成担当者が、話し合った内容や職員のアイデアを反映させながら介護計画を作成している。担当者会議及びユニット会の議事録を残している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	利用者、家族、職員で話し合い意見やアイデアを出しているが、すべては反映されていない	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の表情や家族の意見を反映し、穏やかに過ごしていただけるよう支援している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制は確立されていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	申し送りやケアプラン評価表等で確認し共有している	/	/	○	介護計画の内容は申し送りで共有し、個人ファイルに挟み確認している。利用者の課題を評価表に書き出し、1か月単位で実施状況を確認している。介護記録は時系列に沿って丁寧に記録し、発言やエピソードを交えた具体的な内容の記載へと改善している。今後は利用者の生活に寄り添う一番身近な存在である職員ならではの工夫、アイデアが盛り込めるように期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプラン評価表や介護記録・日誌を確認し、日々の支援につなげている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	介護記録に具体的な内容を記録するよう意識している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録から職員同士で話し合い申し送りノート等に記入している	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	毎月ユニット会で話し合ったり、モニタリングを行ったりして、必要に応じて見直しを行っている	/	/	◎	介護計画の見直し期間の管理は、各ユニットの計画作成担当者が管理し、3か月から半年毎に見直しを実施している。毎月のユニット会で、日々の課題に対する評価表をもとに現状確認を行い、心身状態や暮らしの状態に変化が見られる時は家族と担当者会議を開催して話し合い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月ユニット会やモニタリングで現状把握を行っている	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	その都度家族や職員と相談し、必要に応じてケアプランの変更を行っている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ユニット会で話し合い、また緊急時にはその場にいる職員で対応を検討している	/	/	◎	家族を含めた担当者会議や、毎月のユニット会、緊急時にはその都度話し合いの場を設けている。参加できない職員には申し送りで伝えるほか、話し合いの内容は議事録にまとめて伝達している。確認後は押印・サインでチェックしており、伝達状況が確認できる。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	それぞれが意見を出し合いお互いの想いを共有できるようにしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	日中職員が多い日に行い、特別な用事がない限りは休日であっても参加している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ユニット会議事録を作成し共有している	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝夕の申し送り、申し送りノートを活用し共有している	/	/	◎	申し送りノート、話し合いの議事録で全職員が情報を共有している。確認後は押印・サインでチェックしており、伝達状況が確認できる。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌や申し送りノートの記入、口頭にて情報を共有している	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日したいことは全員にはできていないが、要望が聞き出せるよう努めている	/	/	/	更衣や飲み物、レクリエーションへの参加など、一日を通じてその都度利用者が自分で選択できる場面を設けている。利用者が得意とすることや役割を通じて表情が輝くキーワードを発見している場合もあり、今後は全利用者の支援に活かしていくことに期待したい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	職員がリードしないよう声掛けを行い、洋服を選んでいただいたり選択肢を提示するよう意識している	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	表情や言動からその人に合わせて支援ができるよう意識している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	利用者のペースに合わせるよう心掛けているが、食事や入浴等時間が決まっていることもあり、すべては対応できていない	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	声掛けの仕方を工夫しながら笑顔で明るく対応し、話しやすい雰囲気作りをしている	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	短い会話や表情、仕草で読み取るよう心掛けている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	△	誇りやプライバシーを大切にしよう意識しているが、自分に余裕がない時はできていないこともあるため気を付けたい	◎	○	○	利用者を敬うことを一番大切に考えている。事業所内外の勉強会や研修で、虐待や身体拘束、接遇面から人権や尊厳について学びを深めている。プライバシーへの配慮は、利用者個々の特性への対応ができていないことや、業務に追われてつい大きな声になり、急がせてしまうことに気づきを持っている。居室への入退室も同様で、基本的にノックや声かけして了承を得ているが、常に意識した対応に努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	大声で話しかけてしまったり、トイレ誘導時にさりげない声掛けができていない時があるため、さりげない声掛けを意識したい	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	忙しいとせかしてしまったり、大声を出してしまう時があるので気を付けたい	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際はノックをしたり声掛けをしてから入るようにしている	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護を意識して行動している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として昔の知恵を教わったり話を伺ったりして、助けってもらった際にはきちんと感謝の気持ちを伝えるようにしている	/	/	/	利用者同士の相性や特性を把握した配席誘導や見守りに努めている。顔なじみとして互いに受容している様子や、世話役の利用者が他利用者のお世話をする様子などが見られた。他利用者のことが気になるあまり、トラブルに発展しそうな場面もあるが、職員が利用者の中に入りたり、家族を交えて話し合いを持ったりして良好な関係を築けるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	一人ひとりの役割を把握しながら、利用者同士が楽しく生活できるよう支援している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	席の配置を考えたり、トラブルになりそうな時は職員が間に入り双方の話を聞き、利用者同士でコミュニケーションが取れるようにしている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになりそうな利用者が近づいた時はそばに行き見守りをしたり、声掛けを行いトラブルにならないよう努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	フェースシート等で確認するが、家族以外はあまり把握できていない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族から聞くこともあるが、全員は把握できていない	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族と外出される利用者はいるが、職員による外出支援はできていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	明るく挨拶を行い、気軽に面会できる雰囲気作りに努めている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天気の良い日は散歩したり、初詣やお花見等時々外出しているが、一人ひとりのその日の希望に沿ってはできていない	×	○	△	花見や初詣などの外出行事では季節の移り変わりを楽しみ、日常的には車いすを利用する重度の利用者を含め、広い敷地内での散歩で気分転換を図っているが、今後は敷地内に限らず利用者のその日の希望に沿った気軽な外出支援を行うことに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の夏祭りや餅つき大会に参加することはあるが、協力体制は取れていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日や本人の体調が良い時は施設内を散歩する	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族との外出はできているが、地域との連携は取れていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々の行動や心理状態の理解に努め、職員同士で連携を取りながらケアを行っている	/	/	/	利用者のできることやできそうなことを見守り一緒に行うことで、心身機能の維持・向上を図る取組みに努めているものの職員がつい口を出してしまいがちと気が付いているため、今後の改善に期待したい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	口腔体操・リハビリ体操や本人のできることをケアプランに反映させ、日々のリハビリにつなげている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	時々口を出してしまうことはあるが、できる所は見守りを行っている	◎	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	役割を把握して、できることを協力してもらっている	/	/	/	家事や作業にやりがいを感じ、役割を励みにしている利用者は介護計画に反映させている。全ての利用者それぞれの個性を活かした支援へつなげていくことに期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	その人に合わせた声掛けを行っているが、すべての利用者にはできておらず、また拒否される利用者もいる	◎	◎	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	イベント時にしか交流がなく、地域での支援はできていない	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	服を選んでもらったり、普段の服装から好みや個性を把握している	/	/	/	初夏のさわやかな装いで身だしなみを整え、おしゃれが大好きな女性利用者が、コーディネートを色々試しては職員と語り合い、自己表現を楽しみ、アドバイスを受ける様子が見られた。現在、自分の好みを表現することが困難な重度の利用者はいないが、季節に応じた身だしなみで清潔に過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	散髪時も本人の希望を聞いたり、服装等も本人が選んだものを着たりできるよう支援している	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考えたり提示して、アドバイスができるようにしている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時や季節に合わせて、ふさわしい服装を意識して選べるようにしている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度確認し、プライドを傷つけないよう配慮している	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	訪問の散髪や美容師の家族が来所して対応している	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔を意識し身だしなみを整えている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	生命維持や、食べることの楽しみが様々な意欲につながると考えられる	/	/	/	法人栄養士がバランスのとれた献立を立案し、一括で食材を準備し、調理員が2ユニット分の調理を担っている。テーブルのセッティングなど、できることは自主的に行っている利用者もいる。好き嫌いやアレルギーは入居時に把握し、代替食材で対応する場合もある。献立には、ちらし寿司や和え物、旬の食材を取り入れた季節を感じられる工夫もあった。箸やコップなどの一部食器類は利用者が使い慣れたものを持ち込んだり、使いやすいものを事業所で準備したりしている。職員は利用者の食事の介助や見守り、箸が止まってしまうがちな利用者には動作を促す声かけなどを行っているが、交代で休憩を取るため一緒に食事は摂っていない。離床が困難な重度の利用者は現在いないが、食事介助が必要な利用者には細やかに説明しながら、他の利用者との会話を楽しめるよう支援している。食事摂取量が低下傾向にある利用者は、家族を交えて話し合い、食事形態を工夫しながら少しでも美味しく楽しむことができるように支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	栄養士が考え食材も発注しており、調理も職員が行っているため利用者と一緒に作る体制ではない	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	簡単な片付けは手伝ってもらっているがほとんどできていない	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの・好きなものを把握し配慮している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	献立は栄養士が考えており、アレルギー等は作る際に配慮している	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	その人に合わせた食事形態や量を意識している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ほとんどがご自分のものか、本人が使いやすいものを使用している	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べていないが、見守りや介助を行っている	/	/	×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	メニューの説明をしたり、声掛けをしながら楽しく食事ができるよう配慮している	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人ひとりの食べる量やバランスを考え配慮している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取には細目な声掛けを行い、食事摂取には補助食品の使用などを検討している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	栄養士が献立を作っている	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	定期的に消毒を行うようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	声掛けを行ったり勉強会を行ったりして、口腔ケアの重要性を理解している	/	/	/	口腔内の違和感や義歯の不具合などの訴えがある場合は、訪問歯科受診につなげ、早期対応に努めている。セルフケアができる利用者には声かけ誘導しながら見守り、必要に応じて介助して清潔保持できるよう努めている。セルフケアができる利用者の口腔内の状態把握が見落としがちになるため、今後は定期的に全利用者の状態を把握することに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケア時にチェックするようにしているが、ご自分でされる方が多いため全員の把握はできていない	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	特別指導は受けていないが、歯医者への往診時に学ぶことはある	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	その人に合った支援を行うようにしている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	なるべく本人にしてみせ、できない所を声掛けや介助にて支援している	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	不具合が生じた場合は家族に相談し、往診にて対応している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できるだけトイレを利用して、本人が気持ちよく排泄できるよう配慮している	/	/	/	トイレでの排泄を基本として、できることを継続できるよう身体状態に応じた排泄支援を検討している。排泄用品を適切に利用できるよう話し合いを行い、利用者が精神面でも安心が得られるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘は心身ともに不調になるため、普段から気を付けている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	生活記録等で把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	日中・夜間やその日の状態に合わせて見直しを行い、なるべくオムツに頼らないようにしている	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員同士で要因を考えながら、その都度改善を行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	その日の状態により失敗する時もあるが、早めの声掛けを行うよう意識している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族・職員と相談した上で使用を決めている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中・夜間等状態に合わせて使い分けをしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	腹部マッサージや体操・運動を行ったり、水分を多めに取っていただく等の取り組みを行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴日は決まっているが、時間や順番は希望に添えるよう配慮している	◎	/	△	週2回、午前中の中の入浴時間は固定している。利用者の多くが入浴を楽しみにしているため、ゆったりとした時間が確保できるように工夫し、希望や体調に配慮して順番を調整しながら入浴支援を実施している。今後は利用者からの要望があれば、午後の中の入浴にも応じるなど柔軟に対応して欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯加減を配慮したり、一人ひとり時間を取って入浴している	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人ができる所はしてもらい、介助が必要な際は二人介助で対応する時もあり、安全に行っている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、声掛けを工夫したり時間をおいて対応している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い、入浴後も声掛けを行ったり様子を見ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	△	大体把握できているが、日々違う人やその日の状態によって違う時もあるので、すべては把握できていない	/	/	/	利用者の睡眠傾向を考慮し、生活リズムを大切にしたい支援に努め、日中の過ごし方や支援内容を検討している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日によって原因が違うこともあり全員には対応できていないが、日中なるべく離床し生活リズムを整えるよう声掛けを行っている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	薬は最終手段として利用者・家族・主治医と相談し総合的に判断している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼夜逆転にならないよう気を付けながら休んでいただいている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	全員にはできていないが本人の希望があれば家族と相談の上支援している	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	希望があれば支援しているが、全員にはできていない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	電話時は見守りしているため気兼ねなくはできていない	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙は本人に渡しているが返信することはほとんどない	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	全員にはできていないが、希望があれば家族に協力してもらい対応している	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を持つことは社会参加の意識を高めることにつながる	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	全員ではないが移動スーパーが来た際に利用される方もいる	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	移動スーパーの協力はあるが、お店に買い物に出かけるための働きかけはできていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談の上お金を所持していただいている方もいるが、全員ではない	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談の上管理方法を決めている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金として対応しており、家族への説明・同意を得ている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	外部サービスはあまり取り入れられていない	◎	/	○	利用者や家族のニーズを把握し、心情を理解しながら柔軟な対応をしたいという思いがあり、通常の内科受診同行だけでなく、他科専門医への受診の支援も行っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	日曜日は玄関が開いていないので少し入りにくい、玄関は広く開放的である	◎	◎	○	総合施設建物共通の玄関を利用し、明るく柔らかな色調で親しみやすさが感じられる。事業所がある建物3階のホールには、年代物の端午の節句兜や古箆、茶道具を職員や代表者が持ち寄り、季節に応じた和みの空間を演出している。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共用スペースは広く車椅子の方でも安全に移動ができる。また季節の花を飾ったり、利用者と一緒に作った壁面飾りもあつたりと、ゆったりとくつろいで過ごすことができる	◎	○	○	共用の空間はどれも十分な広さと高さがあり、落ち着いた色調の壁面や家具を採用し、様々な場所にソファを設置している。毎日清掃を行い、清潔で臭気のない空間を確保し、快適に生活できるようにしている。卓上に飾った紫陽花の花を利用者同士が鑑賞しながら触って会話し、水替えをする利用者もいる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、天気の良い日は換気も行っている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合った壁面飾りを利用者と一緒に作ったり、季節の花を飾ったりしている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアが広くソファもいくつか置いてあり、自由に過ごせるよう工夫している	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	ホールに面しているため、開け閉めの際は配慮している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていた物を持ち込んでいただき、居心地良く過ごせるよう配慮している	◎	/	◎	居室には利用者の好みのものを自由に配置して、居心地よく過ごしてもらっている。安心感を得るために自宅から大型のソファなどの家具が持ち込まれ、自室を再現していた。また、必要に応じて床にマットレスを置き、安全に生活できるように配慮している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室やトイレ等に表示をしたり、スペースを確保しゆとりを持って移動できるよう物の配置を行っている	/	/	○	自分の席がわからなくなりちな利用者のためテープで表示し、トイレには利用者目線の高さに表示を掲げ、お風呂には大きなのれんをかけ、雰囲気を演出しながらもわかりやすさに配慮している。車いすや歩行が安定しない利用者が安全に移動できるよう、動線の安全確保にも努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	共用スペースには細々したものは置かないようにしている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	花や雑誌・新聞等置いているが、気軽に取れる所には置いていない	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	弊害を理解しているが、安全確保を第一としオートロックにて対応している	◎	◎	×	両ユニット出入口にはテンキーの施錠システムがある。鍵をかけることの弊害について学ぶ機会を設け、現在の事業所での取組みが利用者にとって自由な暮らしであるかと問いかけてもいる。建物全体のセキュリティ上、施錠システムを活用することについては家族や地域住民に説明し、理解を得ている。今後も現在できる最大限の対応について検討し、正しい認識を学ぶ機会を継続させ、鍵をかけないケアについて問い続けて欲しい。また、日曜日は玄関が開いていないため、来訪ごとに開錠してもらうことに気兼ねしてしまう家族の心情を察し、対応を検討して欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	安全優先になっており、家族も同意されている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	安全優先になっている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェースシート、アセスメントシートにて把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックを行い、身体状態の変化があれば記録に残し、すぐに対応できるようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問診療時に主治医に相談、また緊急時には主治医に連絡を取り指示を受けている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望時には他の病院の受診も対応している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望を取り入れながら、医療機関と連携が取れるようにしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	家族と相談し、その都度対応を確認している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーや口頭にて情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	見舞い時や電話等で情報を聞くようにしている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	かかりつけ病院以外は関係作りがあまりできていない				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問診療時に主治医に相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	主治医に相談している				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	事故や状態変化時は主治医に相談し指示を受けている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋やお薬手帳等で確認している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	職員同士による声掛けや、薬箱・お薬カレンダー等で誤薬を防ぐようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しく薬が処方された時は、その後の状態変化がないか意識して様子観察をしている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態変化時には経過を記録し主治医・薬剤師に相談している				

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化時はその都度家族と話し合い、意向を確認している	/	/	/	事業所での看取りの実績はないが、利用者の状態に応じて家族等や協力医療機関と方針を共有している。また法人全体でフォローできる体制を整えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	書面にて意向を共有しているが、定期的な確認はできていない	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	契約時にアンケートにて意向を確認している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	管理者、ケアマネより説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状態変化時には医療機関と連携を取り支援している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	その都度話を伺って支援を行っている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会で定期的に学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会に参加しマニュアル等で確認している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ニュースや学校からのメール等で最新の情報を確認している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に努め、面会制限や消毒の強化等随時対応している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い・うがい・マスク・消毒等で対応している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人と家族の関係を考え、協力してもらえる所は声掛けを行っている	/	/	/	家族には毎週開催する地域住民との交流会、事業所や法人内で行う行事に参加の呼びかけを行い、利用者の事業所での暮らしに触れられる機会を設けている。家族には電話連絡でも日常の様子を伝えているが、暮らしぶりやケアの内容をより具体的に知りたい、運営上の事柄や出来事について知りたいという家族の声が上がっているため、十分に理解できるような伝え方の工夫など、今後の取組みに期待したい。職員は家族が気軽に意見を言えるよう来訪時には声かけに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時は明るく挨拶を行い、居室やホール等でゆっくり過ごしていただけるようにしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	面会時にイベントがあれば参加していただくこともあるが、すべての利用者にはできていない	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	電話にて状況報告を行っているが、管理者やケアマネが行うことが多く、介護職が日常的には連絡できていない	○	/	△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話の際、その都度話を伺い報告している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族の考えや想いを伺った上で支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	その都度の報告はできていない	×	/	×	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族同士の交流は行っていない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	その都度リスク等あれば説明し、対応策を検討している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時声掛けを行い、要望や相談があれば伺っている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者より説明を行っている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	管理者より説明を行っている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	管理者より説明を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	主に施設長が対応している	/	○	/	事業所開設以来、町内会と共に協力し合える良好な関係が構築できている。地域住民と交流する機会が毎週あり、建物スペースを提供し気軽に利用してもらっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	毎週金曜日にイベントがあり、地域の人々にも開放されている	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	交流行事が少ないため増えている実感はない	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	毎週金曜日のイベント時には立ち寄って下さる	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	日常的な交流はできていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	地域のイベント時には声掛けしてくれるが数は多くない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	外出支援ができていない	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	外出支援ができていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者や家族にも声掛けし参加している	×	/	○	利用者や家族、地域住民の参加や新規参加者を増やしながら開催しており、少しでも活気ある運営推進会議にしたいという姿勢が感じられる。サービスの実際や地域情報の交換など、報告だけでなく意見交換も活発に行われている。議事録に話し合いの様子を詳細にまとめ、誰もが閲覧可能な状態であるが、参加できなかった家族にも共有し理解を深め、参加協力が得られるように取り組んで欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	現状報告を行っている	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域の人からの意見も伺い、サービス向上に活かしている	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	二ヶ月に一回水曜日と決まっているため、そこに合わせて出席できそうな家族に参加の依頼をしている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	公表している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	毎日理念を唱和し、実践できるよう心掛けている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	聞かれた際には答えられるよう意識しているが、伝える機会がない	×	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	定期的に勉強会を行っている	/	/	/	施設長は現場への理解が深く、管理者や職員からの意見を吸い上げ、働きやすい労働環境の整備に努め、地域活動にも積極的に取り組んでいる。また、職員に積極的に声をかけ、相談にも気軽に応じる頼もしい様子が見えがえた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	計画的にはできていない	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	×	職員一人ひとりは把握できていない	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	外部研修はあまり参加できていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	代表者は現場にこない	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会にて学び理解している	/	/	/	法人では身体拘束、虐待、事故防止研修を開催し、正しい共通認識で統一するように努めている。職員同士は適切なケアであったか検討する意識を持っているが、経験の浅い職員には迷いが生じる心配もあり、今後も正しい理解を深めると共に、話し合いの場を設け、対応方法についても学んでいくことに期待したい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ユニット会やその都度気になった時に話し合いをしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	未然に防げるようユニット会等で話し合っている	/	/	△	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	×	代表者は現場にこない	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会やマニュアル等で学んでいる	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会で学び、現場状況と照らし合わせ点検している	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族と話し合いを行い、納得いくケアができるようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	活用する場面がないため理解できているとは言えない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	家族から相談があれば支援したい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	活用場面がないため現在は連携が取れていない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、アクシデント・インシデントを記入した上で発生要因や対応策を話し合っている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的には訓練できていないが、勉強会に参加している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	アクシデント・インシデントを記入し、発生要因や再発防止について話し合っている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その都度状況に合わせて職員同士相談しながら対応している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	状況に応じて対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	状況に応じて対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	施設長、管理者が対応している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常の会話の際、要望があれば伺っている			○	利用者からは日常生活の中で意見や要望を聞いている。家族等からの意見を聞くため意見箱を設置しているが、意見箱の利用はなく、直接意見を伝えてくれている。管理者と職員との絆は大変強く、共に介護業務もやっているため、共感し合い、利用者本位の支援につなげることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	エレベーター前に意見箱を設置したり、面会時や電話の際伺っている	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	定期的には行っていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	現場にこない				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	相談・提案を聞いてくれるが実践できないこともある			◎	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に一回自己評価を行っている				運営推進会議メンバーを中心に、サービス評価の意義や目的、評価結果を共有しているが、全ての家族には伝わっていないため、今後は事業所の運営がより良いものとなるよう、アドバイスや意見をもらいながら運営に活かしていくことに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価のみにとどまっており、学習の機会としては反映されていない				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	個人の達成の積み重ねも含めて取り組みを行っているが、すべては実行できていない				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	モニターまでは至っていない	×	○	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	定期的には確認できていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している				地域防災の意識が高い住民との協力・支援体制が築かれている一方で、家族からは不安感が高まっている現状であり、合同での訓練や話し合う機会を作ることによって不安を軽減させ、今後の協力・支援体制をより強固なものにして欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に消防訓練を実施している				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消防訓練時に消火設備等確認しているが、非常用食料等は定期的に点検を行っていない				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議の際に話し合い連携を取ったり、消防署の方が来所され消防訓練を行っている	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の訓練に参加している				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症関係の勉強会に参加することもあるが、地域活動には参加できていない				一人暮らしの高齢者や家族の介護など困った時に相談する場として、法人の窓口が対応しており、事業所としての対応は行っていない。市担当者や地域包括支援センターとは良好な関係が築かれ、他の事業所とのつながりや、地域の中学校・高校とも密接につながっていきこうとする姿勢がうかがえ、今後は地域の子どもたちとの関わりを高めたいと考えている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	地域の方への相談支援は行っていない		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎週金曜日イベントホールを開放しイベントを行っている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実習生の受け入れを行っている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域と連携しての活動は行っていない			○	